

令和元年度第11回 感染症発生動向調査部会

令和2年2月19日

月番：大西 秀典

1 前月の感染症発生動向について（2020年第1週～第5週・1月）

<全数把握対象疾患>

- ・ 一類感染症については、発生報告は無い。
- ・ 二類感染症については、結核は2018年の報告数380例、2019年の報告数が405例であり岐阜県下において増加傾向である。今月の報告数は35例で、前年同期比102.9%とほぼ同等であるが、潜在性結核感染症については、150%と増加している。
- ・ 三類感染症については、発生報告は無い。
- ・ 四類感染症については、E型肝炎が1件、レジオネラが2件報告されている。
- ・ 五類感染症(性感染症以外)については、クロイツフェルト・ヤコブ病が1件、侵襲性インフルエンザ菌感染症が5件、侵襲性肺炎球菌感染症が11件、水痘(入院例に限る)が1件、百日咳が16件、風疹が1件報告があり、特に侵襲性インフルエンザ菌感染症が対前年比で500%、侵襲性肺炎球菌感染症が137.5%、百日咳が200%と増加している。百日咳はワクチン規定回数接種の5-14歳の年齢層に多発している。

<定点把握対象疾患>

- ・ インフルエンザは定点当たり発生数104.3と依然流行は続いているが、第2週以降徐々に減少傾向で推移している。
- ・ RSウイルス感染症は、定点あたりの発生数1.1と少ないながらも持続して発生が報告されている。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は全国的に発生が急増しているようであるが、岐阜県下においては前月比73.4%と減少傾向である。
- ・ 感染性胃腸炎も全国的に発生が急増しているようであるが、岐阜県下においては前月比75.3%と減少傾向である。
- ・ 伝染性紅斑が全国的に流行しており、岐阜県内でも定点あたり発生数1.7と発生が持続しているが、前月比64.2%となっており、減少傾向と思われる。
- ・ マイコプラズマ肺炎の発生数が定点あたり発生数3.6、前月比110.8%と増加傾向である。前年同期比163.6%であり、全国平均と比較しても発生数はかなり多い。

2 検討すべき課題

- ・ 侵襲性インフルエンザ菌感染症の増加について。一時的な傾向なのか。発症年齢、ワクチン接種の有無はどうか。(大西委員)

3 情報提供すべき事項

- ・ 2020年1月28日付けで新型コロナウイルス感染症が二類感染症相当の指定感染症と決定された。
- ・ HIB ワクチンの供給不足が問題となっている。今後、侵襲性インフルエンザ菌感染症の増加が懸念される。(大西委員)

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ 2020年2月15-16日に御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター(東京)にて第3回日本免疫不全・自己炎症学会総会・学術集会が開催されます。先天的に感染症に罹患しやすい疾患を対象とした学会です。

<検討結果>